

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
機能的解剖学 The functional anatomy		1年	後期	水曜日
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義		必修	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
運動生理学 トレーニング論 トレーニング演習				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
健康運動実践指導者資格街頭科目				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
穂積 元 ・ 今井 雄紀		授業内に提示	授業内に提示	授業中に指示します
授業の概要				
機能的解剖学では健康運動実践指導者としての基礎的知識の習得を目標に授業を行い、その中で身体構造、バイオメカニクスについて学習する。身体運動に関する骨や筋肉、関節の名称や、弾性エネルギーや空中でのボールの空気抵抗、着地での衝撃などをバイオメカニクスの角度から見て学習する。				
授業の到達目標				
①身体運動に関する骨と筋肉の名称が理解できるようにする。 ②呼吸循環器系の位置と働きを理解できるようにする。 ③バイオメカニクスの基礎的知識が理解できるようにする。				
授業の方法				
講義、実技指導、ディスカッション、事例研究などを行い、健康運動実践指導者としての基礎的知識の習得				
学習の成果				
①骨と筋肉の名称を説明することができる。 ②呼吸循環器系の位置と働きが説明できる。 ③走る・投げる・跳ぶと動作をバイオメカニクスの見地から説明ができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業の進め方、成績評価方法、授業での注意点）（9月25日 担当：穂積）			
第2回目	運動器を中心とした人体構造のあらまし（10月2日 担当：穂積）			
第3回目	バイオメカニクスとは（10月9日 担当：今井）			
第4回目	身体運動に関する筋の構造（10月16日 担当：穂積）			
第5回目	身体運動に関する骨と関節の構造（10月23日 担当：穂積）			
第6回目	上肢・下肢・体幹の構造と機能（10月30日 担当：穂積）			

第7回目	バイオメカニクスを学ぶ前の物理学の基礎（11月6日 担当：今井）	
第8回目	（11月13日 担当：今井）	
第9回目	（11月20日 担当：今井）	
第10回目	（11月27日 担当：今井）	
第11回目	筋の弾性要素と弾性エネルギーが利用できる運動方式（12月4日 担当：今井）	
第12回目	着地衝撃とその緩和方法（12月11日 担当：今井）	
第13回目	投動作と打動作の共通点（1月8日 担当：今井）	
第14回目	運動と流体力（1月15日 担当：今井）	
第15回目	試験とまとめ（1月22日 担当：今井）	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
授業参加態度	10%	評価の基準 教材の準備状況や授業を聞く姿勢で評価する。Sは、テキスト、配布プリントなどが整い、しっかりと講義内容をメモしていること。
レポート		
調査報告書		
小テスト	10%	骨・筋肉の名称についての小テスト
中間・学期末試験	70%	
発表内容（態度含む）	10%	要点をまとめ、はっきりとした口調で発表ができているか評価する。
その他		
教科書と参考図書		
健康運動実践指導者養成用テキスト		
履修上の心得・ルール		
時間厳守		